

2023/5/17

件名： 西山和子のIVH医療に関するオンライン会議を終えて

弁護士 岩永隆之 様

当件では、厚労省からのガイドラインについての要点を送付していただきありがとうございました。

さて、当会議は約束の11時から開始され、参加者の自己紹介で始まりました。

医療チーム代表の事務長、精神科医 大坪医師、内科医 赤間医師、
看護師長、PSW 土井相談員、辻恭子、辻俊雄。
Remote 参加 西山紀男。

現時点の和子の状態について、内科の赤間医師から説明があった。

4月末から誤嚥性肺炎になり、食事ができなくなった。
抗生剤の点滴を開始した。
精神科の大坪医師と今後どうするかを相談した。

幸い、肺炎は回復し、5月11日から食事ができるようになった。
ただ、上側の入れ歯が整合しないため、食物を噛むことが出来ない。
刻み野菜と全粥を与え、介助者が補助しています。

次に、精神科の大坪医師が説明、肺炎は治ったが、寝たきりの状態です。

今までの排便に対する反応は無くなり、介護衣は止めて、普通の寝巻に
替えています。
口から食事がとれるようになったので、IVH治療はやらなくしました。

事務長から、「IVH治療はやらなくなった。将来、その機会が発生した時には
西山さんに連絡します。」

紀男から、質問：先日の、大坪医師が「保護者から西山を外す。」と通告した件は
どうなっていますか？」

事務長：「保護者は西山さんです、変更していません。」との返答だった。

紀男から、懸念事項「今年2月、和子の成年後見人 加藤弁護士からの報告には、
「1月末時点、体重が45Kgから38Kgに低下したことが懸念される。」
と報告されている。このことに関する見解は？」

内科医 赤間医師から、「寝たきり状態のため、筋肉が衰える。体重が増えると肥満やコレステロール、等の問題がでるが、現時点、問題はない。」
体重は、2年前 45.2Kg、1月38Kg、3月41.9Kg、5月9日39.2Kgと振幅変化している。問題ないと考えます。」
「入れ歯が整合しない問題は、歯科医と連絡を取って治療してもらいます。」

紀男から、辻恭子に「5月8日、IVH治療をするように」、と大坪医師に訴えた本意を説明するよう求めた。
辻恭子の返答は、「和子が苦しんでいる、と聞いたので、IVH治療を施して、楽にさせたかった。それから見送りたい。」と答えた。

紀男から、和子入院の経緯及び延命治療に対する見解を述べた。
出席者の皆さんに土井相談員から渡された資料はお読みになりましたか？
1ページ目の写真をご覧ください。和子は信頼できると思う方にしか口を開きません、と伝えた。

次に、和子入院の経緯、および人の死についての思いを伝えた。
「和子は、父親からの暴力と虐待から逃れるために病院に入れた、とキミエ母から聞いている。
弟の紘二も父親からの虐待から逃れるために榎葉病院に入院させた、と母親から聞いている。
紘二の場合は、父から追い出され、長崎駅のベンチで寝ているところを、2度も警察から補導された。」
「榎葉病院に長期入院し、2019年、榎葉病院で悲惨な死に方をしました。」

「西山家は、代々浄土真宗です。
50年以上も自由を奪われ、耐えてきた和子にとっては、延命治療は終身刑とおなじです。自然死を選んでやり、浄土に送ってやりたい。」
「そこは、大無量寿経に説いているように、春風のような穏やかな処で、自由に動き回れる、と説いてあります。」

「弟の紘二は、諫早から改装した横浜の長延寺の墓地に会葬しています。
月命日には、横浜の夫婦がお参りし、供養しています。
毎日、家族で「正信偈」を読んで、お経をあげています。」
「私は、自然死を選びます。」

事務長から、「西山さんは宗教のことまで含めて話をされました。」
「今回は、IVH治療はやらなくなりました。」

「将来、その機会が発生した時は西山さん、他に連絡します。」
「会議を終わります。」

以上で、会議は終了しました。